回覧																			

あさひば だより 12月号

地域情報版

秋津　桜木　桜木東　若葉

※「あさひば」は、秋津まちづくりセンター管轄地域の愛称です。

熊本市配布文書６号
令和8年（2026年）11月15日発行
発行者：秋津まちづくりセンター・公民館
熊本市東区秋津3丁目15-1　電話368-2200
akitsumachizukuricenter@city.kumamoto.lg.jp

熊本市ホームページ

あさひばだよりは熊本市HPにも掲載しています

令和8年熊本地震の被災者支援制度

詳しくは熊本市のホームページをご確認ください。内容によって、窓口が異なりますので、窓口をご確認ください。
※支援内容は随時更新されます。

熊本市ホームページ

令和８年熊本地震

日ごろのつながりで支え合った地域の避難所

- ７月２８日　令和８年熊本地震発生
- 同日　地域公民館を避難場所として開放。LINEのオープンチャットで町内に情報発信。備蓄していた非常食糧を避難者へ提供。町内巡回。避難者が全員帰宅したため夜中の１２時に避難所閉鎖。
- ７月２９日　一部停電していたため、再度地域公民館を避難所として開放。１５名以上の方が避難。
- ７月３０日　停電が順次解消したため、避難者が退所。避難所閉鎖。



避難所を閉鎖した際に避難者の方と運営しているメンバーで、食事会をしたそうです。不安な中、暖かい食事に心が救われますね。

秋津校区の一部の町内では、７月２８日に発生した熊本地震後に、地域公民館を地域の避難所として開放していました。
また、町内自治会を中心に、地域の被災状況の確認をされたり、民生委員児童委員の皆さんは、高齢者や要配慮者の安否確認にも尽力されました。
左のタイムラインは、秋津レークタウン自治会様よりご提供いただいた、地域の避難場所の開設から閉鎖までの対応について時系列に表示したものです。
日頃から町内の情報はLINEのオープンチャット（200名以上が登録）を利用して共有されていましたので、災害発生時はそのLINEを活用して、迅速かつ正確な情報共有ができたこと。防災訓練で炊き出しを実践していたことから、避難所での食事提供も滞りなくできたそうです。
災害対応に当たられた地域の皆様、おつかれさまでした。

”いざ”という時に頼りになるもの



令和８年熊本地震では、改めて地域の人々による「共助」の大切さに気付かされました。夏休みの期間中の発災で、家にいた子どもたちは、大きな地震に戸惑ったことでしょう。保護者も早く帰宅したくても、渋滞が発生し、帰宅までにかなりの時間を要しました。そんな中、ある自治会長さんは、保護者が帰ってくるまで近所の子どもたちを自宅に避難させたそうです。日頃から子どもたちと顔見知りだったこともあり、子どもたちは不安が薄れ、保護者は安心して帰ることができたそうです。近所の人とまず挨拶を交わしてみてください。それが、いざという時に支えてくれる力になるかもしれません。

地域とつながるためのきっかけに参加しませんか？

わかばまつり（若葉校区）

地域のまつりは、気軽に参加できるイベントです。若葉校区の「わかばまつり」では、ダンスや吹奏楽などのステージ発表やゲームコーナー、食べ物を購入できる出店があり、みなさん楽しんでいました。



東野カフェ（秋津4町内×サンワイーテック）



いろいろな世代と地域役員が食事をとおして出会うきっかけのこども食堂。
あたたかい食事をいただきながら、知り合いをつくることができます。

雨宮神社行灯とぼし（若葉校区）

地域に根付く伝統行事。行灯の絵をこども達に描いてもらったり、小学校で伝統文化について話をするなど、次世代につなぐ取組みをされています。





桜木校区運動会（桜木校区）



コロナ禍などを乗り越えて、７年ぶりの校区運動会開催！
各町内が力を合わせて熱戦を繰り広げる一方、世代を超えた交流の輪も広がり、地域の絆を再確認する機会となりました。子どもたちの元気な姿や、大人も童心に返って競技を楽しむ様子が見られ、会場は終始和やかな雰囲気に包まれていました。



桜木東校区運動会（桜木東校区）

「運動苦手だし、参加するのはちょっと…」と思っている方もいるかもしれませんが、「風船割り」や「ボール回し」など、誰でも参加することができる種目も用意されているので、大丈夫！
桜木東校区の運動会では、こども達が一生懸命応援していたのが、印象に残りました。学校の運動会では味わえない世代を越えたスポーツイベントで、一体感を味わってみてはいかがでしょうか。

